

Into my Packet



後藤滋樹の

## 新・社会楽

後藤滋樹  
goto@goto.info.waseda.ac.jp  
早稲田大学 理工学部 情報学科

## 第39回「サイボーグになる」

## 【爪と歯を補強する】

ある朝、靴下をはこうとしたら、足の爪が靴下の内側に引っかかる。妙な具合に爪の先端が割れているのだ。爪切りで形を整えようとしたが、うまく行かない。えーい。

傍にある木工用の接着剤で固めてみる。

この接着剤作戦は意外に成功した。木工用では頼りないので、数日後にエポキシ樹脂で上塗りをする。これで外観上も遜色ない。ちょっと艶が出すぎたかな。それにしても、木工用の接着剤が効くなって、私の爪はいったい何でできているのだろう。

爪を補強していると、奇妙な感覚に襲われた。人間をプラスチックで修理しているのだ。こういうのをサイボーグ【注1】というのではなかったかな。

そう思っているうちに、以前に治療した歯の具合がおかしくなった。5年ぶりに歯医者さんに行く。地図で場所を確かめないと記憶があやしい。行ってみると場所も建物もお医者さんも同じだった。しかし治療法は格段に進歩していた。ガリガリと削るのは以前と同じだったが、光で硬化するプラスチックが大活躍している。小さなランプを口の中に入れて、タイマーの音がピッと鳴る。はい固まりました、これで終わり。

これで、爪と歯の一部がプラスチック製になってしまった。

## 【眼鏡は顔の一部なのか】

眼鏡屋さんの宣伝の中で「眼鏡は顔の一部です」と言っている。確かに顔の印象は眼鏡によって異なる。それ以上に、私のような近眼にとって眼鏡は生活必需品だ。私の自動車免許には、条件の欄に「眼鏡等」と明記されている。

サイボーグという観点からは、眼鏡よりもコンタクトレンズのほうが人間に密着している。その効用は視力の矯正のほかにもあるらしい。瞳の色を自由に選べるコンタクトレンズという宣伝を見かけた。そういえば、お化粧というのは何だろう。あれもサイボーグの初歩かしら。皮膚だって人間の一部だし、爪のマニキュアというのは、私の爪の修理と同類ではないか。

冷静に考えてみると、生身の人間だけでは生活ができない。往来を裸で歩く人は滅多にいない。裸で外出すると逮

捕されてしまいそうだが、それ以上に衣服がないと寒くてかなわない。靴だって必需品だ。旧ソ連のゴルバチョフ元大統領は、幼少時に家が貧乏で靴が買えず、学校に通えない時期があったという。極寒の地で靴がなければ、外出は困難だろう。東京だって雪が積もる日は靴に要注意だ。

靴ではサイボーグという実感が湧かないが、新しい靴を履いた日は、何となく鉄人28号【注2】になってしまう。こういう日は手袋も頑丈なのがいい。実に人間は多くの道具に囲まれて生活している。生身の人間だけでは非力な存在である。



## 【パソコンは知的自転車か】

そう思って身の回りを見渡すと、我々の得意(?)とするインターネットだって、ウェブのページや電子メールを読むためには、パソコンか端末、あるいはFAXに変換する工夫など、とにかく道具が必要である。この種の道具が普及してきたお蔭で、インターネットが万人のものになった訳だ。パソコンが「パーソナル」だという意味は大きい。

昔の大型機の時代にも、電子メールは存在したのだ。しかしコンピュータが高価であり、台数は極めて少なかったから、ネットワークの効用にも限界があった。今やパソコンが街の電器屋さんの店頭にも並ぶ時代になった。そのパソコンの性能は往時のスーパーコンピュータを凌ぐのだから、コンピュータネットワークの立場からは同慶の至りである。

さて、そのコンピュータと人間との密着度合いは、人によって差がある。いかにも人馬一体となった感のある名人もいれば、テクノストレスの犠牲者も存在する。世の中の平均で言えば、まだまだパソコンが使いやすいとは言えないようだ。Macintoshが発売される以前に、Apple IIという歴史に残る名機があった。その解説書が日本でも出版されたが、その中の1冊には「知的自転車」という副題がついていた。今なお心引かれる言葉である。

【注1】：サイボーグ：サイバネティクス(cybernetics) + 器官(organism)を語源とする。直訳すれば「改造人間」。

【注2】：鉄人28号：昔の漫画に登場したロボット。鉄腕アトムと同様に根強いファンがいる。

Illustration: Harada Kaori



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)